

東久留米市立第六小学校 第5学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを整理して文章を書くことが難しい児童がいる。 複数の資料を読み取って比較することや、読み取ったことを基に自分の考えを表現することを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 構成メモ（考えたこと・思ったことなど）を活用して内容を整理してから書かせる指導をする。 それぞれの資料の内容を端的にまとめる活動を重ね、共通点や相違点を表にまとめる活動を体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期2回以上の作文指導を行う。80%以上の児童が書けるようにする。 説明的文章や文学的文章の学習では、文章を端的にまとめる活動を入れ、70%の児童が書けるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から情報を正しく読み取ることを苦手とする児童がいる。 教科書に出てくる言葉を理解できていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取れることを箇条書きにし、根拠を明らかにしながら説明させるようにする。 教科書、資料集の必要な部分については、音読を学習活動に位置付けたり、テスト前にクイズを作ったりして、言葉の意味を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全単元で、資料を読み取り、気付いたことをノートにまとめる活動を1回は位置付け、90%の児童が書けるようにする。 ワークテストの語句説明や用語の穴埋めで、80%の児童が資料を読めている。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の理解が十分でないため、立式できなかったり、自分の立てた式に自信をもてなかったりする児童が目立つ。 基礎的な計算（加法、減法、乗法九九）の速さ、正確さについて個人差が大きい。 小数のわり算での小数点の移動や余りについての理解が充分でない児童が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を、数直線や関係図に表す経験を重ねる。特に数直線ではかき順や矢印の使い方を丁寧に指導し、自信をもって数直線から立式できるようにする。 基礎計算（主に繰り下がり減法や九九）を繰り返し練習する機会を増やす。 朝学習でのeライブラリで小数のわり算に取り組みできなかったところを繰り返し練習する機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> テストで正しく立式できる児童が70%以上。 ワークシートやワークテスト等で、正確に解けているかを確認する。（正しく解ける児童が80%以上）
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察において、結果から分かることを考察することや、その内容を表現することを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察の目的に沿った考察や結論の書き方や文章の形の指導を位置付け、時間を確保しながら自力で考察や結論を書かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 70%の児童が、考察や結論について自分の考えを文章で表現することができる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 思いをもって演奏に取り組むことができているが、それを表現する技術が伴っていない児童もいる。 鑑賞の学習で、感じたことをどのように書いたらよいか悩む児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人練習の時間を多く設ける。 児童同士で聴き合って、技能を高められるようにする。 感受ワードを提示しておき、参考にして書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材ごとに、一人一人の演奏を聴取し、児童の技能を確認する。 ワークシートで見取る。（鑑賞の題材で毎回）
図画	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心が高い児童が多いので、一層高められる活動を授業に組み込む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分なりに一層工夫できる技法や材料などを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品鑑賞を通し、8割以上の児童が工夫した点や新たに発見したことを表現できる。

工作	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れはおおむね理解できるが、留意点などを理解していない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて全体指導で注意を促したり、班内で確認する時間を取ったりし、児童同士でもフォローできる習慣を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導の際、十分に理解できたかを挙手で確認する。また、机間指導で個別に声を掛けて確認する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・家での手伝いの有無により、技能や知識の個人差が大きい。 ・得意な児童が制作などの活動で活躍するため、苦手な児童のスキルアップが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能を理解しやすいよう映像や実演を効果的に活用し、必要に応じて個別指導を行う。 ・全ての作業を一人一回は体験できるように、機会を確保し、声を掛けたりワークシートを工夫したりする。 ・児童同士の学び合いを設定し、スキルアップを図る。また、手伝うのではなく、方法を伝えるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作などの実習では十分な作業時間や個別指導の機会を確保し、全員が学習できるようにする。 ・ワークシートに作業のチェック項目を設け、全て行えたかどうか全員の確認をする。 ・交流の様子から見取る。(単元に1回以上)
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を把握し、解決の仕方を見つけて、意図的に取り組むことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用し、自分に合った目標を設定しながら運動ができるようにする。また、グループやチームで見合ったり、教え合い高め合ったりする機会を意図的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を設定し、その課題の解決に向けた練習を選ぶことができる児童80%以上。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見に自信がもてない児童がいる。特に多数派の考えではない場合に多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問を工夫し、考える時間を設けたり、友達の意見を参考にできるようにペアやグループ交流を取り入れ、互いの意見を共有できるようにする。 ・葛藤や、分かっているけれどできないことなど、様々な場面や思いを肯定する雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で発言できる児童80%以上。 ・友達と自分の考えを比べ、考えを広げたり深めたりできていることを、ワークシートに記述した内容から見取る。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で話すことに自信がなく、1人で話す場面では声が小さくなる児童がいる。 ・アルファベットの大文字や小文字が十分身につけていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやトリオの中で話す場面を多くつくり、話す機会を増やす。 ・ライティングの時間を確保し、4本線上に正しくアルファベットを書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーティングや基本の文型については80%以上の児童がよく聞こえるように話すことができる。 ・アルファベットの大文字、小文字を正しく書ける児童90%以上
時間 総合的な学習の	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題や取り組むことの意義がはっきりしないまま活動に取り組んでいる児童がいる。 ・調べたことをまとめたり、表現したりする力の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をもつ時間から、活動をはじめる時間までに、個々の課題をチェックし必要な指導を入れる時間を確保する。 ・調べ方や、まとめ方について指導する時間、苦手な児童に個別指導する時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全単元で実施し、課題を明確にして取り組む。 ・調べ学習でまとめたり、表現したりしたこと毎学期取り組み、全員が発表をする。